Ａ－１　主題設定の理由

＜新学習指導要領より＞

文部科学省は，平成２０年３月に新学習指導要領を告示し，中教審初等中等教育分科会の教育課程部会より出された審議のまとめ（平成１９年１１月）を受けて，新しく重視する内容として，活用する力，言語力，伝統や文化の重視などをあげている。新学習指導要領では，総則において「(略)，基礎的･基本的な知識･技能を確実に習得させ，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力をはぐくむとともに，・・・」と示し，知識・技能の習得とそれらを活用する力の育成を明確に位置付けている。また，指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項では，「基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視する」「体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を重視する」というように，活用に関する学習活動を重視し，各教科においては，具体的に重点指導事項例を示している。このような，知識・技能の習得と活用が各教科に，また総合的な学習の時間には探究する力が位置付けられ，子どもたちにはより確かな学力の育成が求められている。

＜本校児童の学力調査結果分析より＞

平成１９年４月実施の全国学力・学習状況調査の結果について，本校はほぼ全国と同様の傾向にあり（図１），B（主に活用に関する課題）が，A（主に知識に関する課題）に比べ，平均点で２０点近く下回る結果であった。特に「言語事項」や「数量・図形に関する表現・技能」がおおむね定着していたのに比べて，国語Ｂでは「情報を正しく取り出し，書き直す力」に，また算数Ｂでは「問題の条件を整理して，筋道立てて考える力」や「理由や根拠を論述する力」に課題が見られた。

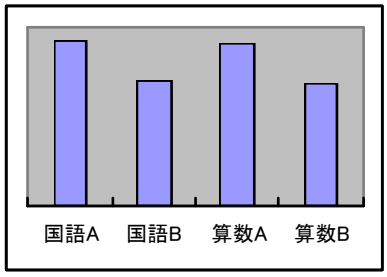

図１全国学力・学習状況調査結果（本校）

平成２０年１月に実施された５年生対象の七尾市学力到達度調査の結果においても，国語・算数ともに応用に関する問題が基礎の問題より２０点以上低い結果であった。しかし，児童の意識調査では「学びの活用」に関する意識が市平均より高く，学習したことを生活や学習の中で生かそうと思っているなど，学びに向かう力に関するアンケートでは８０％近くの肯定的回答が得られた。それに比べ，特に算数の学力調査では「文章題を読み取り，式を考える力」や「式の意味を考え，論述する力」に課題が見られた。活用力に関しては，現在の段階では高学年の学力調査の結果しかないが，５年・６年ともに，どちらの調査においても共通して「考える力」「論述する力」に課題が見られる。

＜昨年度の学校研究の成果と課題より＞

本校は昨年度の学校研究として，主題「どの子も伸びる学びの定着」副題「読解力向上への取り組みを通して」に取り組んできた。特に昨年度は，情報の取り出しや解釈，熟考・評価，論述まで含めたＰＩＳＡ型読解力の中の「読む力」を中心にその授業改善を図ってきたことにより，「正しく読み取る（順序よく，キーワードに着目して，取捨選択して）」子どもの姿や「情報を整理し，比較しながら読む」などの子どもの姿が見られるようになってきた。しかし，読み取ったことをもとに考えたり，それを表現する学習場面では，数名の子どもたちが中心となってしまい，苦手意識を持ってしまう子や何をどのように書いていいのかとまどってしまう子も見られた。「読む力」と連動して「考える力」「書く力」をどのように高めていけばよいのかが大きな課題となってきたところである。

このような子どもの実態や社会的背景をもとにすると，知識・技能の習得とともに，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力等の育成が急務であると考え，本主題を設定した。

＜新学習指導要領より＞
- 基礎的・基本的な知識技能の育成
- 思考力，判断力，表現力等の育成
- 学ぶ意欲の向上

＜本校学力調査の分析より＞
- 全国Ｂテストに課題
- 「考える力」「論述する力」に課題

＜昨年度学校研究の成果と課題より＞
- 成果→読む力の向上
- 課題→考える力，書く力の向上

研究主題「知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力の育成」